

美里町文化財調査報告書第1集

一本柳遺跡
牛飼遺跡

平成19年3月

宮城県美里町教育委員会

一 本 柳 遺 跡
牛 飼 遺 跡

序 文

美里町は平成18年1月1日、宮城県北東部に位置する遠田郡内の小牛田町・南郷町の2町が合併して誕生した自治体です。町内には豊かな自然のなか、国指定史跡「山前遺跡」、町指定民俗文化財「圓根神楽」などをはじめとした歴史遺産が数多く存在し、大切に守り伝えられてきました。これら文化遺産は町民はもとより国民共有の貴重な国民的財産であり、次世代に継承していくことが今に生きる我々の重大な責務であります。また保存とともに積極的に公開・活用を行うことが求められています。

しかし一方では、大規模な土地区画整理や、個人住宅建設などの各種開発事業が年を追うごとに激化しており、特に埋蔵文化財は土地との結びつきが強いことから、破壊・消滅の危機に晒されることが多くなってきております。

このような状況のなか、本町の文化財保護行政につきましては合併に伴い対象範囲が拡大したことにより、文化財保護について開発関係機関へさらなる周知を図るとともに、協議・調整を重ね、できる限りの保存に努めているところです。しかし増加する開発行為に伴う遺跡の緊急調査に対し、少ない職員でなんとか対応しているのが現状であります。

本書は、旧小牛田町都市計画道路の建設に伴う工場移転に先だって平成17年に実施した一本柳遺跡の確認調査と、携帯電話基地局の建設に先だって平成18年に実施した牛飼遺跡の発掘調査の成果をまとめたものです。これらの成果が、地域の歴史的解明と文化財保護思想の高揚のために役立てていただければ幸いです。

このたびの調査に当たりまして、宮城県教育庁文化財保護課には職員の派遣等、絶大なるご指導、ご支援を頂きましたこと、改めて心から感謝申し上げます。また、現地で調査作業に当られた方々、関係機関の皆様に厚く御礼申し上げます。ここに関係各位に対して慎んで敬意を表するとともに、今後も皆様のご指導、ご協力を賜りますことをお願いする次第であります。

平成19年3月

美里町教育委員会

教育長 宮嶋 健

例　　言

1. 本書は、工場建設に伴う「一本柳遺跡」及び携帯電話無線基地局建設に伴う「牛飼遺跡」の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は美里町教育委員会（平成18年1月1日合併以前については小牛田町教育委員会）が主体となり、宮城県教育庁文化財保護課の協力を得て、美里町教育委員会が担当した。
3. 各遺跡の保存協議や発掘調査に当たっては、各関係者のご協力をいただいた。
4. 本書に使用した各遺跡の位置図は、国土交通省国土地理院発行の縮尺=1/25,000の地形図を複製して作成した。
5. 本書における土色の記述については、「新版 標準上色帖 1994年版」（小山・竹原 1994）を用いている。
6. 牛飼遺跡の測量原点の座標値は、日本測地系にもとづく平面直角座標第X系による。
7. 本書で使用した遺構略号は以下の通りである。
SB：掘立柱建物跡 SD：溝跡 SK：土壙 SX：その他
8. 本書は、調査を担当した各調査員の協議を経て、岩瀬竜也（美里町教育委員会）、佐久間光平・佐藤貴志（宮城県教育委員会）が執筆・編集した。
9. 発掘調査の記録や出土遺物は美里町教育委員会が一括して保管している。

目　　次

1. 一本柳遺跡	1
I. 調査に至る経緯	2
II. 遺跡の概要	2
III. 発掘調査	4
IV. まとめ	8
写真図版	
2. 牛飼遺跡	11
I. 調査に至る経緯	12
II. 遺跡の概要	12
III. 発掘調査	13
IV. まとめ	16
写真図版	
報告書抄録	



いっ ほん やなぎ
一 本 柳 遺 跡

調 査 要 項

遺 跡 名：一本柳遺跡（宮城県遺跡地名表登載番号：39044 遺跡記号：IZ）

所 在 地：宮城県遠田郡美里町字新一本柳

調査原因：工場建設

調査主体：小牛田町教育委員会（当時）

調査担当：小牛田町教育委員会（当時） 岩渕 竜也

宮城県教育庁文化財保護課 佐藤 則之 須田 良平

相原 淳一 保原 恒雄 田中 政幸

調査期間：平成17年4月7日～4月15日

調査面積：約300m²（対象面積：約1,350m²）

I. 調査に至る経緯

旧小牛田町（美里町）は都市計画の中で、小牛田駅東部土地区画整理事業を計画し、JR東日本小牛田駅東部の旧小牛田町字小桜地区ほかにおいて都市計画道路「駅東不動堂線」を新設することとなった。そのため都市計画道路の計画路線内における土地利用者の移転が必要となり、移転先について調整を重ねたものの、民間工場については周知の埋蔵文化財包蔵地「一本柳遺跡」内への移転が決定したことから、事業者から一本柳遺跡とのかかわりについての協議書が提出された。これに対し、宮城県教育庁文化財保護課より遺構の有無を確認する為の調査が必要との回答があり、平成17年3月17日には旧小牛田町教育委員会が試掘調査を行った。その結果、工場建設予定地内には古代および中世の遺構・遺物が分布することがわかった。これを受けて、平成17年4月7日～4月15日にかけて確認調査を実施した。

なお、この確認調査の結果をもとに事業者と再度協議し、工場は遺構が希薄な北東側に建築し、ほかは駐車場とすることとなった。

II. 遺跡の概要

1. 遺跡の位置と環境

一本柳遺跡は、遠田郡美里町字一本柳・新一本柳・塩釜に所在する（第1図）。本遺跡は、美里町役場から南東に約3km離れた不動堂地区にあり、美里町の中央部に位置している。地形的には江合川や鳴瀬川が流れる大崎平野東縁部にあって、鳴瀬川左岸に形成された自然堤防上に立地する。一本柳遺跡周辺の丘陵や自然堤防上には、縄文時代早期から中世までの集落跡や古墳・館跡など多数の遺跡が周知されており、古くからこの地域が人々によって盛んに利用してきたことが伺われる。

美里町内には縄文時代から中・近世までの遺跡が多く存在する（第1図）。縄文時代の遺跡は標高20～30mほどの低丘陵上に分布しており、早期の素山貝塚（16）、前～後期の彌堂遺跡（28）、早～中期の山前遺跡（25）・新山前貝塚（27）、後期の船入遺跡（22）、晩期の峯山遺跡（8）などがみられる。弥生時代の遺跡は少なく、新山前貝塚、彌堂遺跡で遺物が発見されているのみである。

古墳時代の遺跡では、古墳が低丘陵ないしは自然堤防上に分布しており、一本柳遺跡と同一の自然堤防上に位置している般若寺古墳（4）をはじめ、金鏡塚古墳（12）、保土塚古墳（17）などの前・中期の古墳や時期が不明なものを含めて17の古墳が存在する。集落跡としては国指定史跡の山前遺跡や駒米遺跡（24）などがあり、前者では前期の竪穴住居跡群とともにこれらを区画する大溝跡が発見されている（小牛田町教育委員会 1976）。

奈良・平安時代の遺跡には、駒米遺跡、化粧坂遺跡（10）、峯山遺跡、狐山遺跡（3）、小沼遺跡（2）などの集落跡がある。これまでに駒米遺跡（宮城県教育委員会 1998）、化粧坂遺跡、小沼遺跡（宮城県教育委員会 2000・2001b・2002）では発掘調査が行われており、この時期の遺跡の状況が解明されつつある。

中世の遺跡の多くは館跡であり、一本柳遺跡のある不動堂地区の低丘陵上には、一本柳遺跡と隣接

する皎善寺館跡（5）、西館跡（6：鶴頭城）、志賀堂城跡（11）が近接して存在する。また、牛飼地区にある応安四年（1371）の銘を持つ大型の板碑をはじめ、鎌倉～南北朝時代にかけての板碑が町内には多数残されている。

2. これまでの発掘調査

一本柳遺跡は奈良・平安時代、中・近世にわたる、東西約1km×南北約0.3kmの範囲に及ぶ遺跡である。平成7～11年度には鳴瀬川の堤防改修と中流堰建設工事に伴う発掘調査が行われ、奈良・平安時代には掘立柱建物群が規則的に配置された官衙的集落であった可能性が高いことがわかった。また、中世の道路跡や掘立柱建物跡、井戸跡、溝跡が検出され、溝で区画された屋敷地が12以上確認された（宮城県教育委員会 1998・2001a）。

さらに、平成10～13年度には出来川右岸地区（担い手育成）基盤整備事業に伴う発掘調査が行われ、古代の畦畔と溝跡が検出され、一本柳遺跡の北側に隣接する小沼遺跡との間の低地に古代の水田跡が広がっていることがわかった。これにより一本柳遺跡の範囲が北側に拡大することが確認された（宮城県教育委員会 1998・2000・2001a・2002）。



No.	遺跡名	立地	種別	時代	No.	遺跡名	立地	種別	時代
1	一本柳遺跡	自然堤防	散布地	奈良・平安、中漢、近世	15	貝塚古墳群	丘陵	円墳	古段
2	小浜遺跡	自然堤防	散布地	古代、中世	16	黒山古墳	丘陵	貝塚	縄文中期
3	風山遺跡	自然堤防	散布地	古代、中世	17	猿土古墳	丘陵	円墳	古墳中期
4	坂合寺古墳	丘陵	円墳	古墳中期	18	後藤神社古墳	丘陵	円墳	古墳中期
5	坂合寺跡跡	丘陵	城壁	中世	19	神谷御壁大島跡	丘陵斜面	築六石	古墳後期
6	西側跡	丘陵斜面	城壁	中世、近世	20	形安七割跡	丘陵	城壁	中世
7	銀山古墳	自然堤防	古墳	古墳	21	神谷古墳	丘陵	円墳	古墳中期
8	茅山遺跡	丘陵	散布地	縄文時期、古代	22	船入遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文中期
9	小町川遺跡	丘陵麓	散布地	古代	23	八面古墳群	丘陵	円墳	古墳中期
10	化林川遺跡	丘陵	散布地	古代	24	駒木古墳	丘陵	集落	前文・古墳、奈良、平安、中世、近世
11	志賀堂城跡	丘陵	城壁	中世	25	（御愛寺）山度跡	丘陵斜面	貝塚、集落	縄文早・中、古墳、古代、中世
12	草森古墳	丘陵	前飛鳥円墳	古墳中期	26	坪道遺跡	自然堤防	散布地	古代
13	鎌保東岸	丘陵	散布地	古代	27	新山前古墳	丘陵斜面	貝塚	縄文早・中
14	鎌保南岸	丘陵	円墳	古墳後期	28	斎堂古墳	自然堤防	散布地、古墳	縄文前・中、後、古墳、古代

第1図 一本柳遺跡の位置と周辺の遺跡

III. 発掘調査

1. 調査の方法と経過

今回の調査は、工場建設予定内の遺構の分布状況、密度などを事前に把握するための確認調査である（第2図）。調査区は南側の駐車場部分に南北方向に5本のトレンチ（幅1.6m×長さ7.5~12m）、工場の建物部分には東西幅5~7m×長さ35mのトレンチ（第1~第6トレンチ）を設置し、第1トレンチから順次調査を開始した（第3図）。南側の第1~第5トレンチでは、トレンチ北側から中央部分で土壌、柱穴などの遺構がやや多く確認された。また、第4~第6トレンチにかかる中世とみられる溝跡も検出した。北側の第6トレンチは中央部から西側では古代とみられる土壌、円形周溝跡、溝跡、中世とみられる土壌、溝跡、ピットなど多数検出した。東側は地形的に低くなり、遺構の密度も低かった。これらの遺構は平面的な確認にとどめ、精査（掘り下げ）は行っていない。

検出遺構の平面図については平板測量（縮尺=1/100）で記録し、調査区断面図については縮尺=



第2図 調査区の位置

1/20で作成した。また、写真撮影には35mmモノクロフィルム、カラーリバーサルフィルム、デジタルカメラ（800万画素）を使用した。

2. 層序

調査区の基本的な層位は、これまでの一本桜遺跡の調査（宮城県教育委員会 1998ほか）で確認されている堆積層とほぼ共通するものである（第4図）。I層：耕作土、II層：褐色砂質シルト、III層：暗褐色シルト、IV層：黒褐色粘土質シルト、V層：灰白色火山灰、VI層：褐色シルト、VII層：黄褐色シルトとなり、III・IV層が中世期、V～VII層が古代の堆積層である。遺構の検出はV層上面で行ったが、この面は西側がやや高く、東および南側は低く傾斜しており、西側では表土下50cm、東～南側では表土下80cmほどで確認される。

3. 検出遺構と遺物

円形周溝跡（1条）、掘立柱建物跡、土壙、柱穴多数を検出した（第5図）。遺構は平面的な確認に留めているため、その所属時期については不明なものが多いため、堆積土の状況や遺構確認時の出土遺物などから古代および中世と推定される。出土遺物は古代の土師器・須恵器、中世陶器、鉄製品、石製品、銅鏡などが少量（コンテナ1箱分）出土した。

○掘立柱建物跡

径12～15cmほどの円形の柱痕跡をもつ柱穴が、第3トレンチや第6トレンチ西側で多く検出されている。これらの柱穴は一辺もしくは径が30～35cmほどの隅丸方形や円形で、その掘り方埋土はIII～IV層起源の黒褐色土と黄褐色土ブロックを主体にするものが大半である。その多くは掘立建物跡の柱穴と推定されるが、これらの組み合わせについては明確ではない。

○円形周溝跡

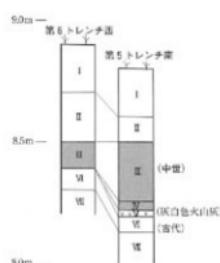
第6トレンチの中央やや東寄りで検出したSD04である。平面形は南北にやや長い楕円形状を呈する。規模は、溝心。間で東西方向は約4.1m、南北方向は約4.8m、溝上幅は概ね50～75cmである。内部には、これに伴うとみられる柱穴などの遺構は確認されなかった。堆積土上部の灰黄褐色シルトから、土師器壺・甕、須恵器壺などの破片が少量出土しており、古代の遺構と推定される。

○溝跡

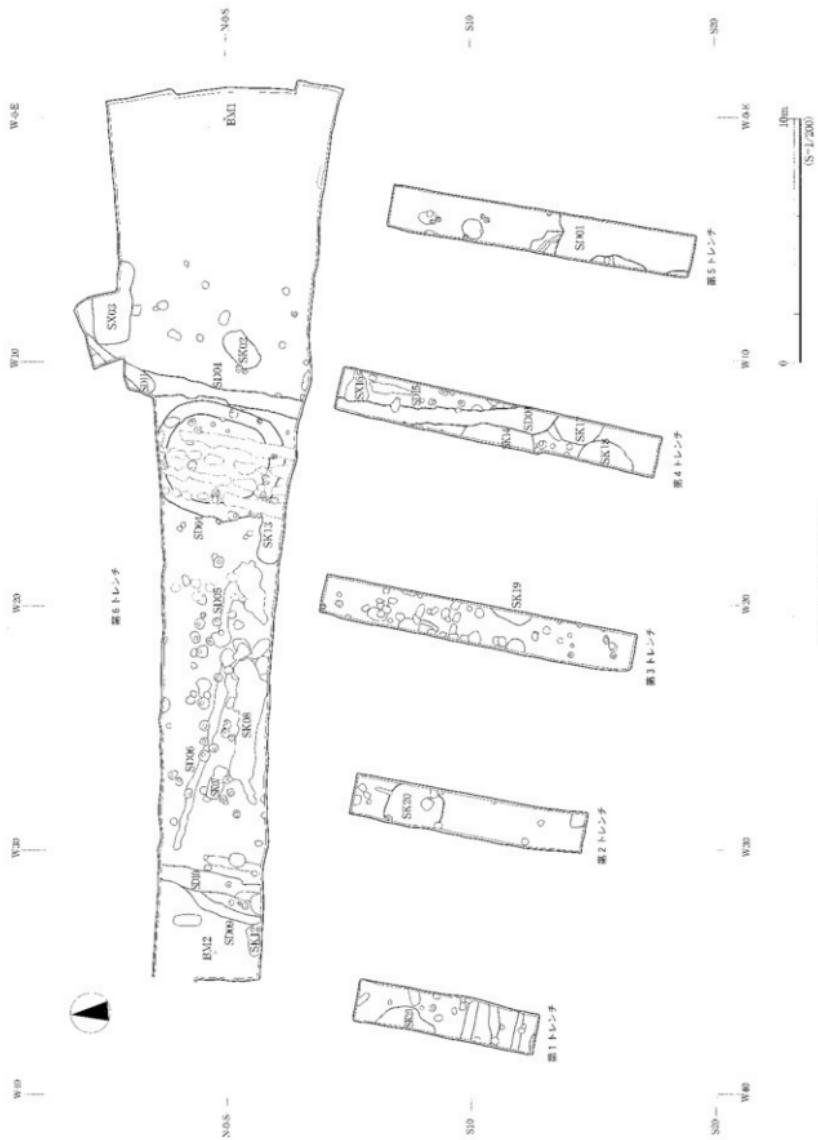
東西方向や南北方向の大小の溝跡が、第1および第4～第6トレンチで検出されている。これらの



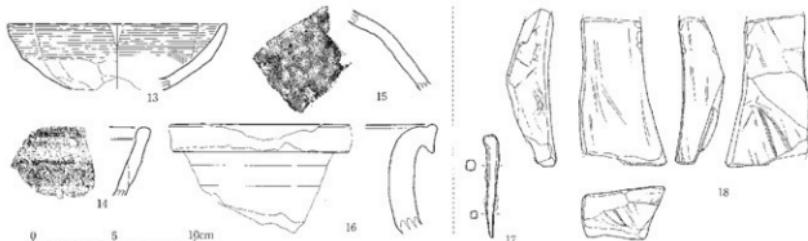
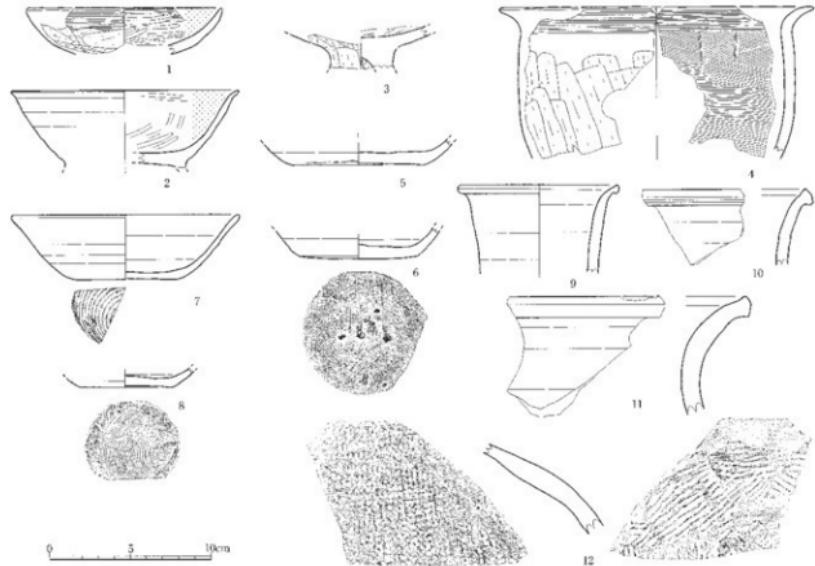
第3図 トレンチ配置図



第4図 基本層序



第5圖 遺構全體図



No.	器種	遺構、層	残存	油量 (cm ³)	特徴	写真図版	發見
1	土瓶器 环	3トレス	1/6	(12.0)	-	内面：口ココナデ【体】ハラケヌリ 外面：白地	2 ① 3
2	土瓶器 高凸环	6トレス	SK02 2/3	(13.8)	-	外縁：クロロナデ 内面：ヘリミガキ・黑色處理 脱脂：脱脂余切り一端凸	② 15
3	土瓶器 突环	6トレス	SD01 3トレス	-	-	合縫合縫リコナデ	③ 9
4	土瓶器 突	6トレス	p2 口・脚部	(18.4)	-	环底外縁：ヘラクズアリ 内面：ヘリミガキ・黑色處理	④ 19
5	土瓶器 突	6トレス	SK02 底・体下部	-	-	外面：口ココナデ【体】ハラケヌリ 内面：口ココナデ【脚】ハラケヌリ	⑤ 14
6	便器器 环	6トレス	SD04 底・体下部	-	7.2	内面底：クロロナデ 底部：ヘラ切リナード、火ダスク痕あり	⑥ 18
7	便器器 环	6トレス	SK02 1/4	(13.0)	0.0	内面底：クロロナデ 底部：圓錐余切り・無調整	⑦ 13
8	便器器 环	6トレス	底・体下部	-	5.6	内面底：クロロナデ 底部：圓錐余切り・無調整	⑧ 12
9	便器器 突	1トレス	p6 口縁部片	(9.6)	-	内面底：クロロナデ	⑨ 1
10	便器器 突	6トレス	SD01 口縁部片	-	-	内面底：クロロナデ	⑩ 8
11	便器器 突	4トレス	SD01 口縁部片	-	-	内面底：クロロナデ	⑪ 4
12	便器器 突	6トレス	SD01 口縁部片	-	-	外縁：馬子状タキシ 内面：アテ貝痕 一部オサズ	⑫ 10
13	小わらけ 盆	9トレス	1/10	-	-	内面：ヨコナデ・オサズ 内面：ヨコナデ・ナザ 黏土に海賊骨封合	⑬ 24
14	小便器器 瓢	6トレス	SD01 口縁部片	-	-	内面底：クロロナデ	⑭ 27
15	小便器器 瓢	6トレス	SK07 小井	-	-	外縁：斜筋面 内面：ナザ	⑮ 22
16	小便器器 瓢	6トレス	SD04 口縁部片	-	-	内面底：ナザ	⑯ 24
17	瓶 井	4トレス	SD04 1/12完	高6.8mm、幅7.3mm、厚2.7mm	-	-	⑰ 22
18	瓶 石	6トレス	SD01 一部欠	砂岩質 長(9.0)cm、幅(5.2)cm、厚(2.5)cm	-	-	⑲ 61

第6図 出土遺物

うち、第4～第6トレンチにかかるSD01は南北方向に約17m延び、南側は東へ屈曲する比較的大きな規模の溝跡である。溝上幅は60～80cmほどある。Ⅲ層面から掘り込まれており、中世期に属する可能性がある。堆積土上部は暗褐色シルトである。なお、第6トレンチ検出のSD10・SD11からは中世陶器片が出土している。

○土壤

第6トレンチを中心に円形状や楕円形状、隅丸方形などの大規模な大きさの土壤が検出されている。堆積土は黒褐色～暗褐色シルトを主体とするもの、灰黄褐色シルトなどを主体とするものがある。第2トレンチのSK20では灰白色火山灰の堆積が認められることから、この土壤は古代に属するとみられる。

○出土遺物

遺構の掘り下げは行っていないので、遺物は遺構を平面的に確認する際に出土したもののみである。これらには、古代の土師器坏・高台坏・高坏・甕・須恵器坏・蓋・壺・甕、中世陶器・かわらけ(皿)などの土器類(第6図-1～16)のほかに、砥石・錢貨・鉄釘(第6図-17・18)などがある。古代の土器は、土師器坏や須恵器坏の特徴から8世紀頃から9世紀頃と推定される。

IV.まとめ

- ① 地形的には、調査区西側から中央部にかけてやや高く、南から東側へ向かって徐々に傾斜する。より低い東側では灰白色火山灰の堆積が認められる。
- ② 円形周溝跡(1条)、掘立柱建物跡、溝跡、土壤など、多くの遺構が検出された。調査区中央部から西側の微高地ではその密度が高い。遺物には古代の土師器・須恵器・中世の陶器・かわらけ、ほかに錢貨・鉄釘・砥石などが少量ある。
- ③ 遺構は平面的な確認のみに留めて掘り下げていないが、遺構の堆積土や確認時の出土遺物などからみると、これらの大半は古代から中世に属するものと推定される。

引用・参考文献

- 小牛田町教育委員会 1976 「山前遺跡」
1998 「駒米遺跡」小牛田町文化財調査報告書第3集
宮城県教育委員会 1998 「一本柳遺跡Ⅰ」宮城県文化財調査報告書第178集
2000 「一本柳遺跡・小沼遺跡」「名生館遺跡ほか」宮城県文化財調査報告書第183集
2001a 「一本柳遺跡Ⅱ」宮城県文化財調査報告書第185集
2001b 「一本柳遺跡・小沼遺跡」「名生館遺跡ほか」宮城県文化財調査報告書第187集
2002 「一本柳遺跡・小沼遺跡」「名生館遺跡ほか」宮城県文化財調査報告書第188集

1. 第1トレンチ（南から）
2. 第2トレンチ（北から）



3. 第3トレンチ（北から）
4. 第4トレンチ（南から）



5. 第5トレンチ（南から）
6. 第6トレンチ（東から）



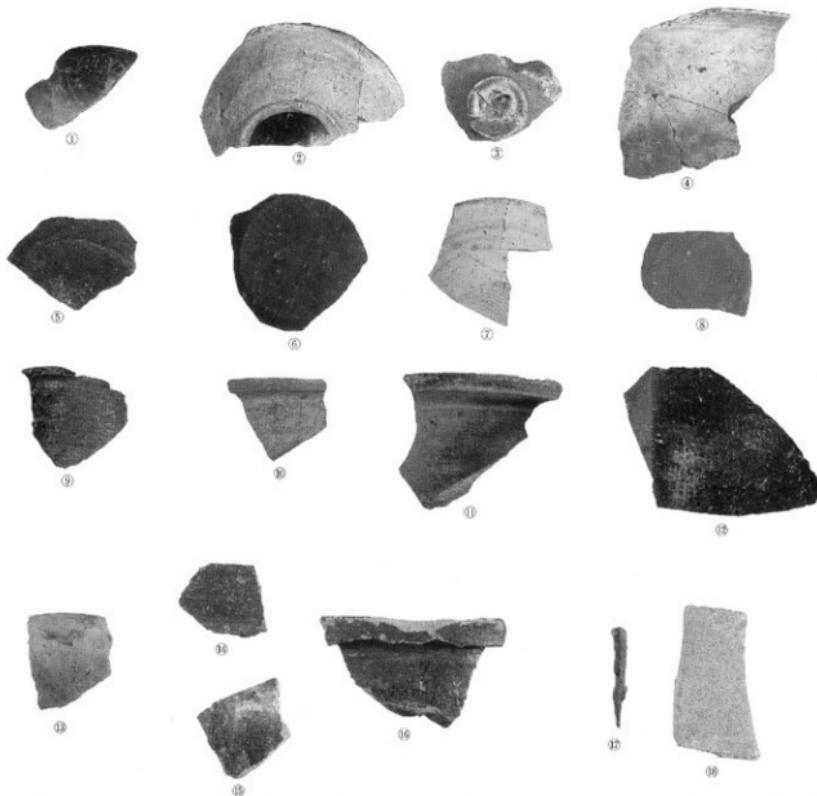
図版1 第1～第6トレンチ



1. SD04円形凹溝跡（第6トレンチ）（北から）



2. SK08付近（第6トレンチ）（北から）



①：土師器环
②：土師器高台坏

③：土師器高坏
④：土師器甕

⑤～⑧：須恵器环
⑨～⑫：須恵器甕

⑬～⑯：須恵器甕

⑰：かわらけ
⑱：中世陶器

⑲：鉄釘

⑳：砥石

S=1/3

図版2 第6トレンチの遺構と各トレンチの出土遺物

牛 飼 遺 跡

調 査 要 項

遺跡名：牛飼遺跡（宮城県遺跡地名表登載番号：39015 遺跡記号：UK）

所 在 地：宮城県遠田郡美里町牛飼字牛飼145番1

調査原因：携帯電話無線基地局建設

調査主体：美里町教育委員会

調査担当：美里町教育委員会 岩瀬 竜也

宮城県教育庁文化財保護課 佐藤 則之 須田 良平

佐久間光平 佐藤 貴志 生田 和宏

調査期間：平成18年4月10日～4月13日

調査面積：約50m²（対象面積：170m²）

I. 調査に至る経緯

牛飼遺跡の範囲内において携帯電話無線基地局の建設計画が立案され、事業者より協議書が提出された。事業計画対象地の西側隣接地では病院等の建設に伴い、平成13年度より2度の確認調査が行われ、古代の遺構・遺物が検出されていることから、当該地点においても遺構が分布する可能性が高いと考えられた。協議の結果、確認調査を実施して遺構や遺物の分布状況を把握することになった。

平成18年3月17日に計画予定地部分に2本のトレーナーを設定して確認調査を実施した。しかし、湧水が激しく遺構の状況が確認できなかったため、平成18年3月29日に再度調査を行った。その結果、柱穴や溝跡などの遺構を検出した。この調査結果を受けて再協議し、平成18年4月10日～4月13日にかけて、事前調査を実施することになった。

II. 遺跡の概要

牛飼遺跡は遠田郡美里町牛飼字牛飼に所在する（第1図）。美里町役場から北に約3km離れた牛飼地区にあり、美里町小牛田地域の中央部に位置している。地形的には、江合川と鳴瀬川が流れる大崎平野東縁部の標高10～15mの江合川右岸にある低丘陵に立地する。遺跡は東西約600m×南北約400mの範囲に及び、時期は縄文時代から古代にわたっている。近年は開発に伴う発掘調査が度々行われており、平成16年に実施された宮城県小牛田農林高等学校の体育館・プール建設計画に伴う発掘調査では、古代の竪穴住居跡2軒、掘立柱建物跡1棟などが検出されている（宮城県教育委員会 2005）。ま



No.	遺跡名	立地	種別	時代	No.	遺跡名	立地	種別	時代
1	牛飼通跡	丘陵	自然地	縄文・古代	7	(復史跡) 山内通跡	丘陵斜面	貝塚・集落	縄文界～中・古墳・古代・中世
2	山内遺跡	丘陵	自然地・城壁	古代・中世	8	貝塚古墳	丘陵	円墳	奈良
3	球磨通跡	自然地	自然地	古代・中世	9	櫛室古墳	丘陵	散布地	古代
4	第4通跡	丘陵	地表	縄文・古墳中後・奈良・平安・中古・近世	10	小町井堀跡	自然地	散布地	古代
5	彦奈通跡	自然地	散布地・古墳	縄文・古墳中後・古墳・古代	11	赤山古墳	丘陵	散布地	縄文・古墳・古代
6	一石毎古墳	沖積平原	河原	古丘	12	化粧土遺跡	丘陵	散布地	古代

第1図 牛飼遺跡の位置と周辺の遺跡

た、当該地区には応安四年（1371）の銘を持つ大型の板碑をはじめ、鎌倉～南北朝時代にかけての板碑が多数残されている。

遺跡周辺には、縄文時代から中・近世までの遺跡が多く存在する。古代の遺跡を中心にみると、山前遺跡（7）、駒米遺跡（4）、化粧坂遺跡（12）、一本柳遺跡、小沼遺跡などがある。これらの遺跡のうち、牛飼遺跡と同様に低丘陵上に位置する山前遺跡や駒米遺跡では、8世紀代の竪穴住居跡などが検出されている（小牛田町教育委員会 1976・1998）。また、一本柳遺跡では8世紀中葉～9世紀前葉にかけて掘立柱建物群が規則的に配置されており、官衙的集落であった可能性が指摘されている（宮城県教育委員会 1998・2001）。

III. 発掘調査

1. 調査の方法と経過

携帯電話無線基地局の基礎部分を対象に、調査区は7.5m×7.5mに設定した。面積は約50m²である（第2図）。調査は4月10日から開始した。調査区では20～40cmほどの盛土下に旧耕作土が20～30cmほどの厚さでみられ、遺構の確認面は地表下30～80cmほどになった。精査の結果、古代とみられる掘立柱建物跡1棟、中・近世以降とみられる掘立柱建物跡4棟、溝跡1条、柱穴多数を検出した（第3図）。遺物は古代の土師器・須恵器の小片が数点出土した。精査の後、遺構の記録と断ち割りを行い、調査は4月13日に終了した。

なお、遺構の平面図については電子平板を用いて作成し、断面図は縮尺=1/20で作図した。平面図作成にあたっての基準点（日本測地系）は以下の通りである。

BM1 : X = -160,799.760 Y = 19,118.722 BM2 : X = -160,751.624 Y = 19,121.241

また、写真撮影は、35mmおよび6×7cmモノクロ、デジタルカメラ（800万画素）を用いた。

2. 層序

調査区付近は最近の盛土（厚さ20～50cm）があり平坦面をなすが、旧地形は北東から南西側に向かって緩やかに傾斜しており、南西部ほど堆積層が厚い。I層：現代の盛土、II層：黒褐色土（旧耕作土）、III層：整地土（地山ブロックを多く含む）、IV層：黒褐色土（旧表土層）、V層：黒褐色～暗褐色土（漸移層）、VI層：黄褐色粘土質シルト層となる（第3図）。IV層の旧表土層は、後世の耕作に



第2図 調査区の位置

よって一部削平されていたものの、北東から南側にかけて残存しており、南側では厚さ20~30cmほど認められる。

3. 検出遺構と遺物

掘立柱建物跡5棟、溝跡1条、柱穴などを検出した（第3図）。遺構の検出面はVI層上面である。

○掘立柱建物跡

【SB01】調査区南東側に位置する。南北3間以上、東西1間以上の掘立柱建物跡とみられる。SB03・05掘立柱建物跡と重複する位置にあるが、柱穴間の直接の切り合いはない。平面規模は西側柱列で総長3.8m以上、柱間寸法は北から1.7m・1.6mである。建物方向は西側柱列で測るとN-21°-Eである。柱穴の平面形は一辺54~58cmの隅丸方形を呈し、深さ48~64cmある。埋土は地山ブロックを含む褐~暗褐色粘土質シルトを基調とする。3個の柱穴すべてにおいて径20~30cmの円形の柱痕跡を確認した。柱痕跡は柱穴掘り方底面から10~34cmほど食い込んでおり、柱材を据えた後に打ち込んだものと考えられる。遺物はP2柱痕跡から須恵器壺の口縁部とみられる小片（図版2-②）が出土している。

【SB02】調査区北端に位置する。東西2間以上の掘立柱建物跡とみられる。SD01溝跡と重複し、これより新しい。平面規模は南側柱列で総長4.0m以上、柱間寸法は2.6mである。建物方向は南側柱列で測るとE-1°-Nである。柱穴の平面形は長軸110cm・短軸60cmの不整梢円形を呈し、深さは50cmある。埋土は地山ブロックを含む黒褐色粘土質シルトを基調とする。2個の柱穴のうち1個の柱穴で径20cmの円形の柱痕跡を確認した。

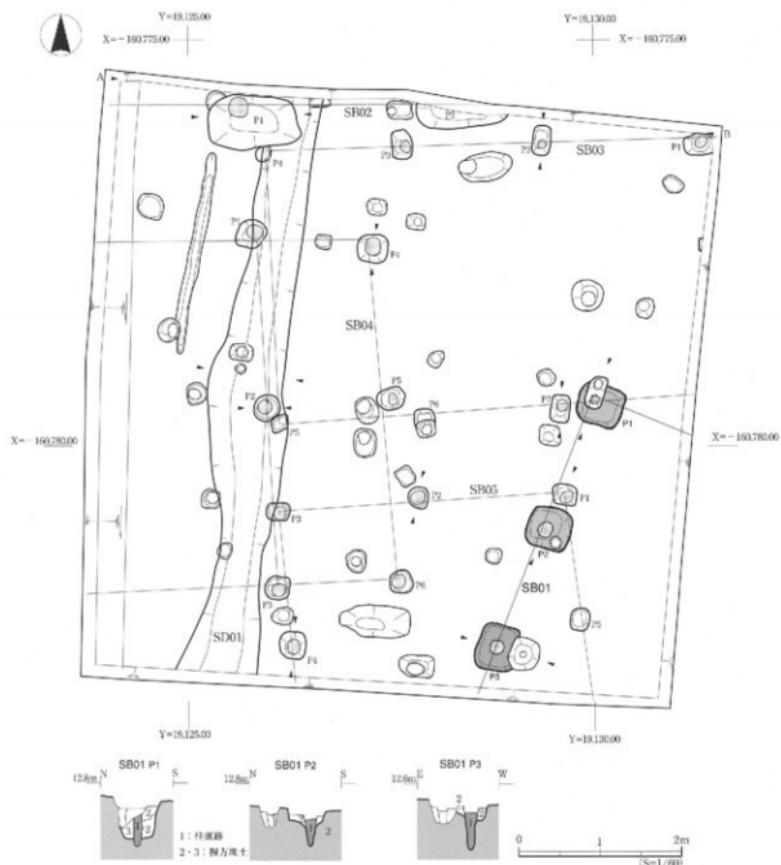
【SB03】調査区北側に位置する。南北1間、東西3間以上の掘立柱建物跡とみられる。SD01溝跡と重複し、これより古い。またSB01・04掘立柱建物跡と重複する位置にあるが、柱穴間の直接の切り合いはない。平面規模は西側柱列で総長3.2m、北側柱列で総長5.4m、柱間寸法は西から1.8m・1.8m・1.9mある。建物方向は西側柱列で測るとN-3°-Wである。柱穴の平面形は径16~38cmの円形もしくは長方形状を呈し、深さは24~32cmある。埋土は地山ブロックを含む黒褐~暗褐色粘土質シルトを基調とする。7個の柱穴のうち4個の柱穴で径20cmの円形の柱痕跡を確認した。

【SB04】調査区西側に位置する。南北2間、東西1間以上で、東に廂を持つ掘立柱建物跡とみられる。SD01溝跡と重複し、これより古い。またSB03・05掘立柱建物跡と重複する位置にあるが、柱穴間の直接の切り合いはない。平面規模は身廈の東側柱列で総長4.4m、柱間寸法は北から2.1m・2.2mある。庇の出は1.5mである。建物方向は東側柱列で測るとN-3°-Wである。柱穴の平面形は径30~38cmの円形を呈し、深さは20~32cmある。埋土は地山ブロックを含む褐~暗褐色粘土質シルトを基調とする。6個の柱穴を検出し、すべてにおいて径14~21cmの円形の柱痕跡を確認した。

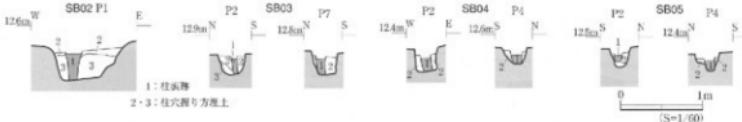
【SB05】調査区南側に位置する。南北2間以上、東西2間の掘立柱建物跡とみられる。SD01溝跡と重複し、これより古い。SB01・03・04掘立柱建物跡と重複する位置にあるが、柱穴間の直接の切り合いはない。平面規模は東側柱列で総長2.5m以上、柱間寸法は1.5m、北側柱列で総長3.5m、柱間寸法は西から1.7m・1.8mある。建物方向は東側柱列で測るとN-5°-Wである。柱穴の平面形は径26~32cmの円形を呈し、深さは25cm前後ある。埋土は地山ブロックを含む黒褐~暗褐色粘土質シルトを



層	土 色	土 性	備 考
I	10YR3/3暗褐色	粘土質シルト	膠土軽油 明黄色ブロック(大)多量含む
II	10YR3/2暗褐色	粘土質シルト	泥作上 はは跡均成 小塊含む
III	10YR3/3暗褐色	粘土質シルト	塑性限 明黄色ブロック含む → II期SB群積時代の豊島層
IV	10YR2/2暗褐色	粘土質シルト	粘土土 黄色ブロック少量含む
V	10YR3/2暗褐色	粘土質シルト	細粒層 黄色ブロック少量含む
VI	10YR5/6黄褐色	粘土質シルト	小塊や多めに含む → 透視確認面



第3図 遺構全体図とSB01掘立柱建物跡

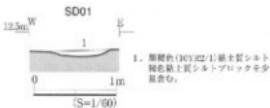


第4図 柱穴断面図

基調とする。5個の柱穴のうち4個の柱穴で径18cm前後の円形の柱痕跡を確認した。

○溝跡

【SD01】調査区西側で検出した南北方向の溝跡である。SB02～05掘立柱建物跡と重複し、SB03～05より新しく、SB02より古い。規模は上幅0.5～1.0m、深さ10cm前後で、断面形は浅い皿状を呈する（第5図）。堆積土は、地山ブロックを含んだ黒褐色粘土質シルトの自然堆積土である。遺物は出土していない。



第5図 SD01溝跡断面図

IV. まとめ

1. 今回の調査では、掘立柱建物跡5棟、溝跡1条、柱穴などを検出した。
2. 検出した遺構は、掘り込み面や重複関係、掘立柱建物跡の方向、柱穴の形態・規模・掘り方埋土の状況から考えると、次のように大きく2時期の変遷が考えられる。

I期：SB01 → II期：SB03・04・05→SD01→SB02

I期のSB01掘立柱建物跡は、他の遺構とは直接切り合わないが、II期の掘立柱建物跡群とは建物方向や柱穴の大きさが異なり、柱穴の平面形は隅丸形を呈する。柱痕跡からは須恵器小甕片が出土している。これらの点から、SB01掘立柱建物跡は古代に属する可能性が高いと考えられる。

II期の遺構群は、切り合いから上記のような新旧関係が認められるものの、掘立柱建物跡の方向はほぼ揃っており、柱穴掘り方埋土には同様に旧表土の黒色土層（IV層）由来の土が含まれている。これらの遺構はいずれも中・近世以降のものであろう。
3. 遺物は、柱穴などから古代の土師器・須恵器の小片が若干数出土したのみである。
4. 今回の調査区は遺跡の南西端にあたるが、地形的には調査区の北東側が高く、遺構はさらに北東側へ延びているものと考えられる。

引用・参考文献

- | | |
|------------|--------------------------------------|
| 小牛田町教育委員会 | 1976 「山前遺跡」 |
| | 1998 「駒米遺跡」小牛田町文化財調査報告書第3集 |
| 小牛田町史編纂委員会 | 1970 「小牛田町史・上巻」 |
| 宮城県教育委員会 | 1998 「一本柳遺跡Ⅰ」宮城県文化財調査報告書第178集 |
| | 2001 「一本柳遺跡Ⅱ」宮城県文化財調査報告書第185集 |
| | 2005 「牛劍遺跡」「青塚城跡 ほか」宮城県文化財調査報告書第203集 |



図版1 調査区と遺構



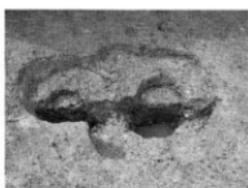
1. SB01掘立柱建物跡（北から）



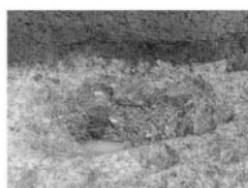
2. SB01-P1



3. SB01-P2



4. SB01-P3



5. SB02-P1



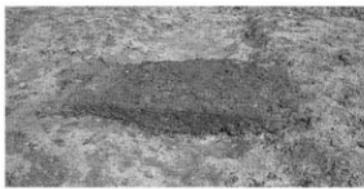
6. SB03-P2



7. SB04-P2



8. SB05-P1



9. SD01



①



②



③



④



⑤

①・②：須恵器片
③～⑤：上部器片 S=1/3

図版2 掘立柱建物跡、溝跡、出土遺物

報告書抄録

ふりがな	いっぽんやなぎいせき うしかいいせき							
書名	一本柳遺跡 牛飼遺跡							
副書名								
卷次								
シリーズ名	美里町文化財調査報告書							
シリーズ番号	第1集							
編著者名	岩瀬 竜也 佐久間光平 佐藤 貴志							
編集機関	美里町教育委員会							
所在地	〒987-8602 宮城県遠田郡美里町北浦字駒米13 TEL 0229-32-2378							
発行年月日	西暦2007年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード	世界測地系	調査期間	調査面積	調査原因		
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
いっぽんやなぎ 一本柳遺跡	宮城県遠田郡 美里町 字一本柳	045055	39044	38度 31分 26秒	141度 5分 42秒	2005.04.07 ~04.15	300m ²	工場建設
牛飼遺跡	宮城県遠田郡 美里町牛飼 字牛飼	045055	39015	38度 33分 06秒	141度 03分 21秒	2006.04.10 ~04.13	50m ²	携帯電話無線 基地局建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
一本柳遺跡	集落跡	古代 中世	土塁 区画溝跡 掘立柱建物跡	土師器・須恵器 中世陶器				
牛飼遺跡	散布地 集落跡	古代 中世以降	掘立柱建物跡 溝跡	土師器・須恵器				

美里町文化財調査報告書第1集

一本柳遺跡 牛飼遺跡

平成19年3月25日印刷

平成19年3月31日発行

発行 美里町教育委員会

宮城県遠田郡美里町北浦字勝米13

印刷 株式会社 東北プリント

仙台市青葉区立町24-24

